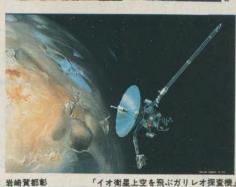
月ギャラリー 8月

美術展めぐり・画廊探訪のニューマガジン: 180YEN

- ●_{特集} 東京・ニューョーク ポップアートの熱い波!
- 作家の肖像 南大路一
- 8月のアートスケジュール マップ付





マスメディアや広告文化が創り出した。芸術 体、さほど明確にされていたわけではなく、 らで、当初はパポップ』という言葉の意味自

る作品が生まれたのは

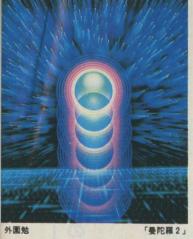
1961年になってか

もどき』という軽い意識の仕方が精々だった

ようだ。誰一人として、

世界的なアート・ム

- ヴになるとは子想しなかったのである。



統的流れではとらえ切れない創造物を包括し 得た言葉は『ポップ』以外何ひとつ残されて ら印象派、そして抽象へ、といった美術の正 が、実際、アートらしからぬアート、写実か に変わる様々な名称はあったに違いないのだ よって産み出された。それまでにも、ポップ いない。しかも、実質的にこの言葉を裏づけ イギリスの評論家ローレンス・アロウェイに ポップ・アートという言葉は、1954年

> よりも我々の今日に深く関わっているという ていった確かな証明であると同時に、忘れる ことである。 み、論理を受け入れることで逆に時代のベク ことができないのは、ポップ・アートの持つ 芸術界の新世紀を不動のものとして築き上げ クニー、ジム・ダイン、ロバート・ラウシェ ない者はいない。それはディヴィット・ホッ アートに興味をもっている者でポップを知ら ンバークといった颯爽たるヒーローたちが、 トルを発見していくといった展開自体が、 しかし、あれから4半世紀余りたった今日 つまり時代のライフスタイルを取り込

班では生活と時代の流れに最も鋭敏であるこ こに向けられているのだろうか。今回、特集 のポップ・アー で変化し続けるこの巨大都市のベクトルはど そして東京のライフ・スタイルを探ってみた。 1986年、東京。恐ろしい程のサイクル トを取り上げ、 ニューヨーク、

規模も大きくなる一方のようだ。 個展・企画展は年を追うごとに増え、また、 それどころか、イラストレーションに関する ラストレーション展が開催されない月はない。 去数年間を振り返ってみても、 ン1986展』が大規模に開催されたが、過 がイラストレーション。先月は池袋西武アー ・フォーラムで『日本のイラストレーショ トの草分け的ジャンル このところイ

然としてとどまることを知らないニューヨー 顔がそこから浮かんでくる。 ク。世界を代表する巨大都市の気取らない素 ない衝撃があるはずだ。最先端の東京と、依 内容の質を考えるとそれだけでは片付けられ プ・アートを取り上げようというわけだが、 うこともあって、誰でも気軽に入れるポッ 目玉として注目を集める。夏休み期間中とい クのイラストレーター20人展』が特に大きな 通アド・ギャラリーで行われる『ニューヨー レーション展』(国際文化振興会主催)と、電 今月は伊勢丹で開催される『日本イラスト



マーク・コスタビ作品

これぞ ニューヨー -ク・ポップ!

生み出すと一体誰が予知し得ただろう。 のつかない明日を創り出す。例えば、マンハ 変化し続ける巨大都市に派生するポップ・エ モアと茶目っ気の中に隠された毒舌。絶えず レー缶にシニカルな精神性。あるいは、ユー だめが、ニュー・ペインティング・ムーヴを 会のひずみにたえかねたこれらの攻撃のはき ッタンの地下を走る電車の落書。鬱屈した社 めこまれ、急速な膨張と広がりをもって予測 1日24時間の中に、ありとあらゆる未来がつ ニューヨークは世界の最先端を走る都市。 スプ

> を手近な道具で表現してしまう。 イジの若者たちは、生活空間に蔓延した緊張

ポップなイラストにつめこまれているんだか じゃないさ、俺たちの都市と俺たちの全ては うよりは、現代に生きる者の最も身近な表現 ら。ライフ・スタイルとポップ・アートがこ に、ニューヨークの「今」が見てとれるとい るマス媒体。1冊1ドル50セントの雑誌の中 しようと試みる。巨大な都市と、速報性のあ 手段として、彼らはそこに自らの情況を表現 抽象の伝統絵画に対するアンチ・テーゼとい ってもいいだろう。肩肘張った美学なんかメ れ程密接な関係をもっている都市は他にない イラストレーションもそのひとつ。具象、